

<h1>月報</h1>	<p>日本キリスト改革派 横浜中央教会</p>	<p>4月号 2015年4月19日</p>
-------------	-----------------------------	---------------------------

連合執事会に出席して

A. H

主の御名を賛美致します。

3月29日に花小金井教会にて連合執事会が開催され、同教会牧師の川瀬勝次先生より「教会の文化と執事」という題で講演がありました。内容的には、前半は「執事の資質」、後半は「伝道と文化の関係」というもので、示唆に富む内容であるため、この紙面を借りて簡単に報告させて頂きたいと思います。

前半の「執事の資質」については、執事は客観的にイメージする能力、相手の立場に立って、その人の本当の必要を満たすことが大切と説いておられます。他人の立場に立って思いやるためには、その人を客観的に判断することが不可欠であり、相手の立場に立って配慮するためには、まずは自分自身を客観的に見るが必要と説いておられます。「親切」と「おせっかい」は似て非なるものです。この相手の立場に立って客観的に配慮できるかどうか、この違いを生み出すものではないでしょうか。これは執事だけにとって大切なものではなく、教会生活を営む全てのクリスチャンにとって大切なことと思います。

後半の「伝道と文化の関係」では、大胆に川瀬先生の持論を展開されています。統計では、改革派教会は1980年までは大きく成長してきましたが、それ以降は停滞し、現在は教勢という面で衰退しつつあります。この背景には様々な理由が考えられますが、川瀬先生は福音と教会文化という視点を提供されています。教会は本質的なことには一歩も譲ってはならないが、本質的でないことには柔軟に対応すべきであり、本質的でない様々なことにこだわるなら、伝道は確実に困難になると説いておられます。

本質的なものは何か。それは十字架の福音とそこから引き出される真理です。そしてそれ以外のことは本質的ではなく、これを教会の「文化」と呼ばれています。具体的には讃美歌、牧師、説教、礼拝形式、会堂、信徒の交わり、新来会者の歓迎、教会のしきたりなどです。

福音はこの「文化」によって伝えられます。福音は「文化」という器に盛られて人々に提供されます。器がなければ福音というスープを食べることができません。つまり「文化」という手段がなければ福音伝道はできません。「文化」である教会の営みの一つ一つをこの時代と人とその必要を客観的に理解し、伝統主義にとらわれることなく点検していくべきと川瀬先生は説いておられます。

以上

昨年6月に38名の発起人により発足した、“IBUKI–Christian Artist Network”
昨年9月には、第1回アート・フェスティバルが、横浜教会で開催され29名のアーティストが集い、様々な表現を用いて主の栄光を現す時を持ちました。

その後、事務局が設置され、私とC. Sさんもそのメンバーに加わりこれからの活動について定期的に協議を続けています。感謝なことに、様々な所からすでにいくつかのオファーがあり、すでに実施済みのものもありますが、2015年に予定されているものも固まって来ましたので、以下簡単にご紹介させていただきます。

■大会教育委員会教案紙表紙デザイン（進行中）

中村未生兄（春日井教会）原画、高橋乃亜兄（湘南恩寵教会）デザイン。

■「まじわり」表紙作品提供

・柴崎由良姉（東京恩寵教会）の作品掲載。

■あさのことばライブコンサート

3月22日（日）於：仙台カナン教会

主催：メディアミニストリー 協力：IBUKI

ショートメッセージ：山下正雄牧師

ライブ 石川ヨナ姉（シンガーソングライター・横浜教会）

■（仮称）第1回 IBUKI 半日修養会

・7月20日（月・祝）13：00～16：00（予定） 於：青葉台キリスト教会

・講演（仮）「文化的宣教について考える～改革派芸術論の視座～」

・講師 山村貴司牧師（青葉台キリスト教会）

・講演後、グループディスカッション

■東部中会信徒修養会

・9月21日（月・祝）10：00～16：30 於：麻生文化センター 大ホール

・ポスター原案作成 山下与兄（横浜教会）

・第1部 講演「喜びに満ちた福音宣教」 立石章三牧師（横浜中央教会）

・第2部 演奏とプレゼンテーション 協力 IBUKI、メディア・ミニストリー

■メディア・ミニストリー・クリスマス

・12月12日（上）18：30 於：御茶ノ水 OCC 8階チャペル

・IBUKIメンバーのアート作品展示、チャペルライブ

以上、主な活動と予定でした。今後のイベントにお気軽に足を運んでいただき、IBUKIの働きを体験していただければ幸いです。お待ちしております。

講演に行ってきました。なるほどと思った言葉をメモしたので並べてみます。

- 新学年、子どものことは1学期くらいじゃ分からない。
- 問題が表に出てくるのがいいクラス。一緒に乗り越えて成長する。
- 全ては聴くことから始まる。
- 聴くことは躰ではない。姿勢がいいから聞いているということはない。
聴くことは意志が決める。
- 人は選んで聞いている。関係性があって聴く。
- 子どもは明るい方を向く。明るくする技術がある。
- なんの工夫もせずに聞いてもらえたらそれは甘い。
- 子どもは聴いてほしい。聴くことで受け止めてもらえたという気持ちが生まれる。
- 友達の話聴きあえるクラスをつくる。
- 優れたベテランは見えない技術（ヒドゥンカリキュラム）を持っている。
- 自分に合ったヒドゥンカリキュラムを身に着ける。
- マイナスのヒドゥンカリキュラムもある。
- 理想の教師像の変化を見極める。今は熱さと冷静な判断をもった教師が理想的。
優しい口調が受け入れられる。世の中に合わせる柔軟さが大切。
- 金八先生のモデルは尾木ママ。
- 人は見た目が9割。最初の出会いを演出する。
- 保護者会は少し高めの声がいい。伝わりやすい。ジャパネット高田。
- 初めての授業参観では最高の授業をする。教師主導型で。保護者は先生と自分の
子を見に来ている。
- 子どもは先生の話は何でも話す。しかし、言ったとおりには伝わらない。
- 皮肉は厳禁。
- 言い負かすことは納得にならない。教師は勝たなくていい。負けなければいい。
- 先手必勝。その電話が教師を救う。
- 連絡帳にはひと手間かける。一言そえる。
- 電話の言葉は選んで最小限に。原稿を書く。

基本的には教員向けの講演でしたが、いろいろと応用が効きそうききそうだと思い
月報に書いてみました。

T. G